2015年08月27日

＜第131回＞銀行業務検定試験成績発表

金融経済3級、金融リスクマネジメント2級が好成績

去る6月7日（日）に実施いたしました第131回銀行業務検定試験の成績結果がでましたので、ご参考までに発表いたします。

法務2級

「法務2級」の成績結果は、〔表－1〕のとおりです。
応募者数6,741名中受験者は5,452名で、合格者は1,352名でした。合格率は24.80%、平均点は41.39点で、前回（2014年10月）に比べて、合格率は2.84ポイント下回り、平均点は0.69点下回りました。
最高点は78点で、田中和希さん（整理回収機構）、水沼理沙さん（個人申込）の2名が個人最優秀賞を受賞されました。
非常に良好な結果となった問題は、〔問題－1〕偽造・盗難カードによる預金の払戻しと銀行の補てん義務で、択一正解率95.10%・平均点8.52点でした。この理由の1つに、論点がシンプルで解答が導きやすかったことが挙げられます。〔問題－2〕〔問題－3〕のその他〈預金〉の問題も平均点がそれぞれ5.42点、5.71点と良好な結果でした。
〈手形・小切手〉の分野では〔問題－4〕4.77点、〔問題－5〕3.51点、〔問題－6〕3.30点となっており、手形・小切手の取扱いに関する出題については、苦戦されてる受験者が多い傾向が続いています。また、〈融資〉の分野でも、〔問題－7〕2.79点、〔問題－8〕2.49点、〔問題－9〕2.35点、〔問題－10〕2.54点となっており、全体的に低調な結果となりました。
記述式試験の解答方法としては、法的三段論法を基本とします。つまり、大前提・小前提・あてはめの3つの段階を踏んで結論を導くものです。
まず、選択肢の正誤を判断するため、大前提としてその論点に対応する法律の条文や判例における結論を提示します。そして、小前提としてその部分に該当する事例にある事実を提示します。小前提が大前提にあてはまれば法律や判例の結論により、その事実が正しい（誤っている）ということがいえます。また、問いは「各選択肢の正誤について記述しなさい」となっており「あてはめ」をして、選択肢が正しい（誤っている）というところまで書くことが求められています。
多くの答案は法的三段論法で書くことによって高得点が得られます。細かい論点の学習だけでなく、アウトプットとしての法的なものの考え方の醸成も、この試験では求められます。

〔表－1〕法務2級・業態別成績一覧表　（合格点は、50点以上。年齢・勤続年数は、受験者の平均値）

	都銀・特銀	地銀	信託	第二地銀	信金	信組	信連・農協	労金	生保・損保	証券	郵政	他団体・個人	全体
応募者数	235	2,413	250	494	2,404	161	179	46	6	0	7	546	6,741
応募比率	3.49	35.80	3.71	7.33	35.66	2.39	2.66	0.68	0.09	0.00	0.10	8.10	100.00
受験者数	187	2,066	179	365	2,018	132	149	32	4	0	7	313	5,452
受験率	79.57	85.62	71.60	73.89	83.94	81.99	83.24	69.57	66.67	0.00	100.00	57.33	80.88
合格者数	66	544	56	76	444	19	31	8	2	0	1	105	1,352
合格率	35.29	26.33	31.28	20.82	22.00	14.39	20.81	25.00	50.00	0.00	14.29	33.55	24.80
平均点	45.78	41.97	41.74	39.14	40.56	38.46	41.22	42.56	47.50	0.00	33.00	44.03	41.39
年齢	27.5	31.6	35.1	38.0	36.8	39.7	37.0	34.0	30.3	0.0	40.0	35.2	34.5
勤続年数	4.3	9.1	11.6	15.0	14.2	16.4	13.5	10.8	6.3	0.0	18.3	11.2	11.7

法務3級

「法務3級」の成績結果は、〔表－2〕のとおりです。
応募者数24,755名中受験者は22,220名で、合格者は6,984名でした。合格率は31.43%、平均点は51.45点で、合格率は前回（2014年10月）に比べて0.83ポイント上回りました。
最高点は98点で、宮下昌彦さん（三菱UFJ信託銀行）、鷹野翔太さん（個人申込）の2名が個人最優秀賞を受賞されました。
正解率が30%以下となった問題は、次のとおりです。
〈預金〉については、〔問－6〕取引先の相続の1問、〈融資〉については、〔問－24〕普通抵当権と根抵当権の異同、〔問－25〕根抵当権の元本の確定、〔問－29〕第三者の弁済と代位、〔問－31〕債務引受、〔問－35〕民事再生手続の5問、〈手形・小切手〉については、〔問－44〕公示催告・除権決定の1問、〈銀行取引関連法〉については、〔問－50〕株式払込事務の1問の計8問となっています。
今回は正解率が30%以下の問題が少なめでした。しかし、頻出の論点でも、直近に出題されていない知識の問題は正解率が低くなる傾向がみられました。問題解説集は過去に出た問題を収録していますが、まずは体系的な理解をして、知識の確認として過去問題を解いてみるようにすることが、合格への近道になります。

〔表－2〕法務3級・業態別成績一覧表　（合格点は、60点以上。年齢・勤続年数は、受験者の平均値）

	都銀・特銀	地銀	信託	第二地銀	信金	信組	信連・農協	労金	生保・損保	証券	郵政	他団体・個人	全体
応募者数	948	6,960	1,091	2,109	5,695	1,104	2,541	649	19	2	414	3,223	24,755
応募比率	3.83	28.12	4.41	8.52	23.01	4.46	10.26	2.62	0.08	0.01	1.67	13.02	100.00
受験者数	883	6,452	973	1,870	5,211	995	2,348	580	12	2	357	2,537	22,220
受験率	93.14	92.70	89.18	88.67	91.50	90.13	92.40	89.37	63.16	100.00	86.23	78.72	89.76
合格者数	411	2,119	336	497	1,534	224	582	192	5	0	124	960	6,984
合格率	46.55	32.84	34.53	26.58	29.44	22.51	24.79	33.10	41.67	0.00	34.73	37.84	31.43
平均点	56.54	52.15	51.78	50.04	51.34	48.85	47.14	52.46	53.67	48.00	52.67	53.66	51.45
年齢	23.3	26.4	26.7	27.2	28.4	30.0	33.4	28.1	41.4	32.5	42.3	30.2	28.5
勤続年数	0.6	3.9	4.2	5.1	6.1	7.6	10.4	4.6	17.7	10.0	19.6	6.5	5.7

財務2級

「財務2級」の成績結果は、〔表－3〕のとおりです。
応募者数10,327名中受験者は8,161名で、合格者は2,323名でした。合格率は28.46%、平均点は46.55点で、前回（2014年10月）の合格率（31.45%）、平均点（50.26点）を下回ったものの、財務2級の試験としては好成績でした。
最高点は94点で、野口茉奈実さん（岡崎信用金庫）、吉本一貴さん、矢島健太さん（以上、個人申込）の3名が個人最優秀賞を受賞されました。
今回の特徴は、著しく平均点の低い問題がなかったことです。もっとも低かった〔問題－10〕運転資金不足の原因分析の平均点は、3.42点でした。次に低かったのが〔問題－5〕株主資本等変動計算書で、3.48点でした。
〔問題－10〕運転資金不足の原因分析では、(1)で運転資金不足額160百万円を2つの要因に分けて、計算過程を示して算出します。答案用紙に、要因その①で売上増加による運転資金不足、要因その②で取引条件の変更による運転資金不足と記載してあるにも関わらず、これにそわない答案が目立っていました。具体的には、①売上増加による運転資金不足の算出で160百万円とした答案が多数あったことです。これは、運転資金不足の原因という概念を理解していないということに他なりません。資金繰り分析の基本となる項目ですので、確実な知識としてください。
〔問題－5〕株主資本等変動計算書は、平成18年の会社法の改正により、期中の純資産の変動を適切に把握する財務諸表として、作成されることになりました。利益処分を定時株主総会以外でも実施できるなど、時期や方法が大幅に自由になったことで、株主資本等変動計算書の重要度はより増しています。
一方で、〔問題－1〕修正仕訳と貸借対照表の作成、〔問題－2〕有価証券の貸借対照表価額の算出、〔問題－4〕修正仕訳と連結損益計算書の作成は、過去に類似問題が出題されているため、平均点は高くなりました。
全体の傾向として、例年申し上げていることですが、計算過程を明示していない、四捨五入の位取りを誤っている、単位の表示を誤っているなど問題文の趣旨にそわない計算結果を示しているミスが、多数見られました。問題文が求める解答ができるよう問題演習を行ってください。

〔表－3〕財務2級・業態別成績一覧表　（合格点は、60点以上。年齢・勤続年数は、受験者の平均値）

	都銀・特銀	地銀	信託	第二地銀	信金	信組	信連・農協	労金	生保・損保	証券	郵政	他団体・個人	全体
応募者数	362	4,467	403	993	2,517	130	91	21	20	0	33	1,290	10,327
応募比率	3.51	43.26	3.90	9.62	24.37	1.26	0.88	0.20	0.19	0.00	0.32	12.49	100.00
受験者数	307	3,776	274	738	2,079	112	85	17	16	0	25	732	8,161
受験率	84.81	84.53	67.99	74.32	82.60	86.15	93.41	80.95	80.00	0.00	75.76	56.74	79.03
合格者数	158	1,106	88	180	394	24	34	6	11	0	4	318	2,323
合格率	51.47	29.29	32.12	24.39	18.95	21.43	40.00	35.29	68.75	0.00	16.00	43.44	28.46
平均点	57.95	47.66	45.57	43.46	41.47	40.22	52.91	52.29	67.31	0.00	37.64	53.83	46.55
年齢	25.8	30.1	31.2	34.6	34.5	36.7	33.8	32.1	29.7	0.0	43.5	32.0	31.8
勤続年数	3.1	7.5	8.2	11.9	12.1	14.9	10.2	8.0	6.5	0.0	19.2	8.3	9.2

財務3級

「財務3級」の成績結果は、〔表－4〕のとおりです。
応募者数19,331名中受験者は16,367名で、合格者は5,171名でした。合格率は31.59%、平均点は49.24点で、前回（2015年3月）の合格率（39.54%）、平均点（54.02点）を下回ったものの、財務3級の試験としては標準的な成績となりました。
最高点は100点で、荒木朋由希さん、濱本敬弘さん（以上、池田泉州銀行）の2 名が個人最優秀賞を受賞されました。
正解率が30%以下となった問題は、〔問－15〕リース取引の説明、〔問－24〕法人税等調整額の算出、〔問－40〕長期的安全性の分析、〔問－48〕営業活動によるキャッシュ・フローの額の算出、〔問－50〕総配分性向の算出の5問でした。
〔問－15〕は「リース取引に関する会計基準」からの出題で、ファイナンス・リース取引とオペレーティング・リース取引の2つの取引の相違が理解されていれば容易に解答できる問題でした。
リース取引は、今日、日常的に行われていますので、その違いを確実に身につけてください。
〔問－24〕は示された資料から将来減算一時差異の合計を算出し、法定実効税率を乗じて法人税等調整額を計上するもので、毎年のように出題されています。
〔問－40〕は長期的安全性の分析を理解させる基本的なもので、出題頻度の高いテーマです。固定比率、固定長期適合率などの算式を確実に学習してください。
〔問－48〕は示されている資料から間接法によるキャッシュ・フロー計算書の「営業活動によるキャッシュ・フロー」を求めるもので、財務諸表の諸項目の増減額が加算項目なのか、減算項目なのかを理解させる基本的な問題で、出題頻度の高いテーマです。
〔問－50〕は企業による株主への利益還元の度合いを示す指標で、今回、初めて出題しました。
近年、配当金のみの割合を示す配当性向よりも、株主への利益配分を幅広く表す概念として経営目標に採用する企業が増えています。
それぞれ実務的な視点からの出題ですので、基本を確実に身につけ、どのような出題形式にも対応できるよう心がけてください。

〔表－4〕財務3級・業態別成績一覧表　（合格点は、60点以上。年齢・勤続年数は、受験者の平均値）

	都銀・特銀	地銀	信託	第二地銀	信金	信組	信連・農協	労金	生保・損保	証券	郵政	他団体・個人	全体
応募者数	565	4,469	414	1,811	5,630	980	856	112	285	8	504	3,697	19,331
応募比率	2.92	23.12	2.14	9.37	29.12	5.07	4.43	0.58	1.47	0.04	2.61	19.12	100.00
受験者数	522	3,981	319	1,558	4,937	841	758	83	184	7	419	2,758	16,367
受験率	92.39	89.08	77.05	86.03	87.69	85.82	88.55	74.11	64.56	87.50	83.13	74.60	84.67
合格者数	380	1,334	113	390	1,148	166	193	33	66	5	81	1,262	5,171
合格率	72.80	33.51	35.42	25.03	23.25	19.74	25.46	39.76	35.87	71.43	19.33	45.76	31.59
平均点	67.53	50.63	51.79	45.97	45.34	43.75	45.24	51.86	48.55	65.71	41.34	56.19	49.24
年齢	23.4	26.6	32.5	27.4	28.5	31.1	33.6	30.6	30.4	23.6	41.5	31.9	29.2
勤続年数	0.6	4.4	9.5	5.5	6.5	9.2	11.4	6.0	6.9	0.6	17.7	8.4	6.7

財務4級

「財務4級」の成績結果は、〔表－5〕のとおりです。
応募者数3,109名中受験者は2,922名で、合格者は1,922名でした。合格率は65.78%、平均点は66.08点で、ともに前回を下回りました。
最高点は100点で、渡辺義一さん（秋田県信用組合）、岩田大輝さん、髙木真哉さん（以上、東京センチュリーリース）、井上裕太さん（日立キャピタル）、髙津大輝さん（枚方信用金庫）、永島政和さん（山陰合同銀行）、中川朋美さん（豊川信用金庫）、庄司理沙さん（播州信用金庫）の8名が個人最優秀賞を受賞されました。
正解率が30%以下となった問題は、〔問－43〕目標利益を達成するための売上高の算出の1問でした。
一方で、正解率が80%を超えた問題は、〔問－1〕簿記上の取引とならないもの、〔問－3〕取引要素の結合関係、〔問－9〕伝票から推定される取引、〔問－21〕売掛金が回収不能となったときの仕訳、〔問－22〕棚卸資産の期末評価、〔問－35〕勘定科目と貸借対照表上の記載区分の6問でした。
例年出題されているテーマについてはやはり正解率が高く、問題解説集でよく学習されていることが伺えます。
財務4級では、仕訳からスタートして財務諸表、財務分析までの入門レベルの問題が幅広く出題されます。上級の3級や2級で応用が利くように基礎レベルの知識をしっかりと学習してください。

〔表－5〕財務4級・業態別成績一覧表　（合格点は、60点以上。年齢・勤続年数は、受験者の平均値）

	都銀・特銀	地銀	信託	第二地銀	信金	信組	信連・農協	労金	生保・損保	証券	郵政	他団体・個人	全体
応募者数	12	146	1	474	1,309	368	444	18	1	0	4	332	3,109
応募比率	0.39	4.70	0.03	15.25	42.10	11.84	14.28	0.58	0.03	0.00	0.13	10.68	100.00
受験者数	12	136	1	450	1,262	348	406	13	1	0	4	289	2,922
受験率	100.00	93.15	100.00	94.94	96.41	94.57	91.44	72.22	100.00	0.00	100.00	87.05	93.99
合格者数	10	90	0	291	900	212	212	11	1	0	0	195	1,922
合格率	83.33	66.18	0.00	64.67	71.32	60.92	52.22	84.62	100.00	0.00	0.00	67.47	65.78
平均点	75.00	65.63	44.00	65.13	68.24	64.24	60.18	69.69	90.00	0.00	42.00	68.61	66.08
年齢	25.3	24.5	30.0	23.7	24.5	25.8	26.7	29.4	48.0	0.0	42.3	30.0	25.4
勤続年数	1.1	3.3	8.0	1.6	2.6	4.7	3.3	3.2	10.0	0.0	14.0	4.2	3.0

信託実務3級

「信託実務3級」の成績結果は、〔表－6〕のとおりです。
応募者数4,903名中受験者は4,275名で、合格者は1,723名でした。合格率は40.30%、平均点は53.99点で、前回の合格率（52.02%）、平均点（58.06点）を下回りました。
最高点は90点で、内田朋子さん（日本トラスティ・サービス信託銀行）、中根彩佳さん、川越淳平さん（以上、三井住友信託銀行）、米田怜子さん、赤尾進一郎さん、廣田英勝さん（以上、三菱UFJ信託銀行）、飯田寛人さん（山田エスクロー信託）、宮岡良多さん（伊予銀行）の8名が個人最優秀賞を受賞されました。
正解率が30%以下となった問題は、〔問－5〕受託者の義務、〔問－6〕利益相反取引の禁止、〔問－10〕相殺の制限、〔問－26〕年金税制の4問でした。
一方、正解率が80%以上となった問題は、〔問－49〕不動産業務の1問でした。
分野別にみると、〈従業員福祉に関する信託〉の成績が低調であり、苦手とされている受験者が多いようです。例年出題されているテーマも多いので、問題解説集等も活用して、各企業年金制度を正確に理解することが求められます。

〔表－6〕信託実務3級・業態別成績一覧表　（合格点は、60点以上。年齢・勤続年数は、受験者の平均値）

	都銀・特銀	地銀	信託	第二地銀	信金	信組	信連・農協	労金	生保・損保	証券	郵政	他団体・個人	全体
応募者数	129	517	2,922	59	94	6	37	20	1	0	1	1,117	4,903
応募比率	2.63	10.54	59.60	1.20	1.92	0.12	0.75	0.41	0.02	0.00	0.02	22.78	100.00
受験者数	120	437	2,633	42	74	5	35	13	1	0	0	915	4,275
受験率	93.02	84.53	90.11	71.19	78.72	83.33	94.59	65.00	100.00	0.00	0.00	81.92	87.19
合格者数	64	121	1,136	10	16	2	13	2	1	0	0	358	1,723
合格率	53.33	27.69	43.14	23.81	21.62	40.00	37.14	15.38	100.00	0.00	0.00	39.13	40.30
平均点	58.00	48.93	55.52	46.14	45.27	48.00	51.66	40.46	68.00	0.00	0.00	52.85	53.99
年齢	25.8	35.0	32.4	36.4	38.5	40.4	35.9	32.8	48.0	0.0	0.0	35.3	33.3
勤続年数	3.1	12.2	9.6	13.5	16.2	8.5	12.9	12.2	25.0	0.0	0.0	11.1	10.2

金融経済3級

「金融経済3級」の成績結果は、〔表－7〕のとおりです。
応募者数5,381名中受験者は4,742名で合格者は2,450名でした。合格率は51.67%、平均点は58.68点で、ともに前年を上回りました。
最高点は92点で、安齋悠惟さん、山本悟史さん（以上、商工組合中央金庫）、服部さやかさん、廣田英勝さん（以上、三菱UFJ信託銀行）、寺元祐貴さん（日本生命保険）、中村奨さん（八千代銀行）、瀧桂太さん（静岡銀行）、吉川正経さん（個人申込）の8名が個人最優秀賞を受賞されました。
正解率が30%以下となった問題は、〈金融〉では〔問－7〕商品市場、〔問－22〕わが国の対外投資、〔問－29〕女性の活躍推進の3問、〈財政〉では〔問－48〕地方財政の1問の計4問でした。
一方、正解率が80%以上となった問題は、〈金融〉の〔問－3〕わが国の資産の証券化、〔問－4〕わが国の短期金融市場、〔問－11〕NISA、〔問－17〕PPP/PFI 事業、〔問－21〕反社会的勢力と銀行取引、〔問－28〕振り込め詐欺救済法の6問でした。
正解率が80%以上となった問題には、例年出題されているテーマが多く、また新規テーマでも新聞等を読んでいれば解答できるため正解率が高かったと推測されます。
昨今、国内の金融政策や海外の金融情勢が注目されています。本種目は、このような状況のもと、新規テーマからの出題も取り入れていますので、学習の際のポイントとしてください。

〔表－7〕金融経済3級・業態別成績一覧表　（合格点は、60点以上。年齢・勤続年数は、受験者の平均値）

	都銀・特銀	地銀	信託	第二地銀	信金	信組	信連・農協	労金	生保・損保	証券	郵政	他団体・個人	全体
応募者数	44	1,711	1,303	343	373	51	84	59	466	5	284	658	5,381
応募比率	0.82	31.80	24.21	6.37	6.93	0.95	1.56	1.10	8.66	0.09	5.28	12.23	100.00
受験者数	42	1,550	1,184	296	330	39	78	55	392	5	257	514	4,742
受験率	95.45	90.59	90.87	86.30	88.47	76.47	92.86	93.22	84.12	100.00	90.49	78.12	88.12
合格者数	31	889	670	126	118	15	40	16	210	5	65	265	2,450
合格率	73.81	57.35	56.59	42.57	35.76	38.46	51.28	29.09	53.57	100.00	25.29	51.56	51.67
平均点	65.43	60.72	60.35	56.25	52.83	54.62	60.00	51.78	58.33	78.40	49.49	58.81	58.68
年齢	29.8	30.7	35.7	33.3	34.6	33.6	32.0	32.2	27.3	24.0	27.2	34.4	32.4
勤続年数	6.5	8.6	13.4	10.7	12.7	11.1	9.6	9.2	3.8	0.3	4.9	10.8	10.0

デリバティブ3級

「デリバティブ3級」の成績結果は、〔表－8〕のとおりです。
応募者数951名中受験者は706名で、合格者は262名でした。合格率は37.11%、平均点は51.94点で、ともに前回を下回りました。
最高点は94点で、山畠弘展さん、曽根啓太さん（以上、個人申込）の2名が個人最優秀賞を受賞されました。
正解率が30%以下となった問題は、〔問－2〕金融商品取引法上のデリバティブ取引、〔問－4〕金融商品とデリバティブとの関係に関する考え方、〔問－25〕ドル償還特約付円貨債券、〔問－48〕デリバティブ取引の信用リスクの4問でした。
科目別にみますと、〈基本知識〉5問中2問、〈先物取引・フォワード取引〉10問中なし、〈オプション取引〉15問中1問、〈スワップ取引〉15問中なし、〈リスクほか〉5問中1問と、〈基本知識〉〈リスクほか〉に受験者の苦手とする問題がありました。
〔問－2〕は、定番といえるテーマですが、初出の選択肢が正解であったことが低調な結果となったと推測されます。
〔問－4〕は、初出のテーマで、デリバティブ以外の金融取引がデリバティブ取引と同様の機能があるか否かを問う問題です。各種デリバティブ取引の基本的な役割を考えるうえで重要な事項なのですが、受験者にとって馴染みの薄いものであったようです。
〔問－25〕は、定番といえるテーマで例年同様な形式で出題していますが、毎回やや低調な結果となる難度が高めの問題です。
〔問－48〕は、近年特に注目されている内容です。本問題で出題した内容を理解されていなかった方は、この受験を機に学習してください。

〔表－8〕デリバティブ3級・業態別成績一覧表　（合格点は、60点以上。年齢・勤続年数は、受験者の平均値）

	都銀・特銀	地銀	信託	第二地銀	信金	信組	信連・農協	労金	生保・損保	証券	郵政	他団体・個人	全体
応募者数	77	437	21	31	32	5	11	6	3	0	2	326	951
応募比率	8.10	45.95	2.21	3.26	3.36	0.53	1.16	0.63	0.32	0.00	0.21	34.28	100.00
受験者数	57	358	19	21	27	4	11	4	2	0	2	201	706
受験率	74.03	81.92	90.48	67.74	84.38	80.00	100.00	66.67	66.67	0.00	100.00	61.66	74.24
合格者数	21	118	13	6	7	3	6	2	1	0	2	83	262
合格率	36.84	32.96	68.42	28.57	25.93	75.00	54.55	50.00	50.00	0.00	100.00	41.29	37.11
平均点	50.14	51.08	66.11	47.52	45.70	62.50	55.64	54.00	70.00	0.00	73.00	53.11	51.94
年齢	26.9	32.3	34.4	35.7	38.6	27.8	30.7	35.3	41.0	0.0	34.0	32.7	32.4
勤続年数	3.8	9.5	11.5	11.9	14.8	10.5	7.7	13.5	10.0	0.0	11.0	8.2	9.1

窓口セールス3級

「窓口セールス3級」の成績結果は、〔表－9〕のとおりです。
応募者数2,320名中受験者は2,135名で、合格者は455名でした。合格率は21.31%（合格基準点54点）、平均点は43.55点となりました。
最高点は82点で、鳥﨑聡江さん（大阪シティ信用金庫）が個人最優秀賞を受賞されました。
正解率が30%以下となった問題は、〔問－3〕現金の取扱い、〔問－5〕預金受払時の基本、〔問－6〕窓口業務のコンプライアンス、〔問－7〕顧客カードの記載事項、〔問－10〕各種取引規定、〔問－11〕約束手形の取扱い、〔問－14〕為替業務知識、〔問－15〕財形貯蓄預金、〔問－16〕年金知識、〔問－26〕J-REITの商品特性、〔問－33〕個人向け国債の商品性、〔問－39〕外国債券に対する説明、〔問－41〕振り込め詐欺救済法、〔問－43〕成年後見制度、〔問－50〕各種係数、の15問でした。
一方、正解率が80%以上となった問題は、〔問－1〕CSとコミュニケーション、〔問－4〕定期預金の解約、〔問－9〕リスク性金融商品、〔問－35〕苦情トラブル①、〔問－36〕苦情トラブル②、の5問でした。
基本的に本種目は、窓口セールスを行う際の知識として広い分野から出題されます。事務的な規程から商品知識、経済動向等に普段から関心をもつことが必要です。

〔表－9〕窓口セールス3級・業態別成績一覧表　（合格点は、54点以上。年齢・勤続年数は、受験者の平均値）

	都銀・特銀	地銀	信託	第二地銀	信金	信組	信連・農協	労金	生保・損保	証券	郵政	他団体・個人	全体
応募者数	10	812	1	312	529	106	219	9	1	0	4	317	2,320
応募比率	0.43	35.00	0.04	13.45	22.80	4.57	9.44	0.39	0.04	0.00	0.17	13.66	100.00
受験者数	9	755	1	289	495	97	200	9	1	0	3	276	2,135
受験率	90.00	92.98	100.00	92.63	93.57	91.51	91.32	100.00	100.00	0.00	75.00	87.07	92.03
合格者数	4	216	1	55	64	14	11	2	0	0	0	88	455
合格率	44.44	28.61	100.00	19.03	12.93	14.43	5.50	22.22	0.00	0.00	0.00	31.88	21.31
平均点	52.00	46.39	64.00	42.84	40.97	40.14	35.78	46.89	42.00	0.00	39.33	47.54	43.55
年齢	30.8	29.5	28.0	27.0	28.8	29.5	29.0	29.7	52.0	0.0	37.7	31.8	29.3
勤続年数	7.4	6.2	6.0	5.1	6.9	8.3	6.4	8.8	9.0	0.0	16.7	8.2	6.6

法人融資渉外2級

「法人融資渉外2級」の成績結果は、〔表－10〕のとおりです。
応募者数1,281名中受験者は1,034名で、合格者は254名でした。合格率は24.56%、平均点は47.11点で、合格率は前回を上回りました。
最高点は81点で、野竹紘貴さん（中国銀行）が個人最優秀賞を受賞されました。
今回、平均点が3点以下となった問題はなく、良好な結果でした。
一方、平均点が5点を超えた問題は、〔Ⅱ〕設備投資と損益分岐点売上高、〔Ⅳ〕資金移動表の分析、〔Ⅴ〕輸出金融と為替リスク、〔Ⅷ〕事業継続性の検討の4 題でした。このうち、〔Ⅱ〕〔Ⅳ〕については、出題頻度が高い問題であることより、問題解説集等での学習ができていれば十分に解答できる内容といえます。
また、〔Ⅴ〕〔Ⅷ〕については、最近、実務において触れる機会が多い問題でした。
いずれにしても、基本的な知識の習得・確認は常とし、それらを実務に応用していく姿勢が重要です。

〔表－10〕法人融資渉外2級・業態別成績一覧表　（合格点は、60点以上。年齢・勤続年数は、受験者の平均値）

	都銀・特銀	地銀	信託	第二地銀	信金	信組	信連・農協	労金	生保・損保	証券	郵政	他団体・個人	全体
応募者数	34	760	3	155	127	11	6	0	0	0	0	185	1,281
応募比率	2.65	59.33	0.23	12.10	9.91	0.86	0.47	0.00	0.00	0.00	0.00	14.44	100.00
受験者数	31	651	2	132	90	8	6	0	0	0	0	114	1,034
受験率	91.18	85.66	66.67	85.16	70.87	72.73	100.00	0.00	0.00	0.00	0.00	61.62	80.72
合格者数	11	180	1	13	16	2	0	0	0	0	0	31	254
合格率	35.48	27.65	50.00	9.85	17.78	25.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	27.19	24.56
平均点	50.55	48.63	41.50	42.51	41.20	41.13	38.50	0.00	0.00	0.00	0.00	48.43	47.11
年齢	30.6	33.6	29.0	32.1	37.8	36.0	34.3	0.0	0.0	0.0	0.0	31.3	33.5
勤続年数	8.0	10.9	6.5	9.7	15.0	11.3	13.8	0.0	0.0	0.0	0.0	8.5	10.8

法人融資渉外3級

「法人融資渉外3級」の成績結果は、〔表－11〕のとおりです。
応募者数2,717名中受験者は2,335名で、合格者は798名でした。合格率は34.18%、平均点は53.26点で、合格率は前回を上回りました。
最高点は86点で、左近雅英さん（湖東信用金庫）が個人最優秀賞を受賞されました。
本種目は〈基本知識（択一式）〉と〈技能応用（記述式）〉で構成されています。
〈基本知識〉で正解率が30%以下となった問題は、〔問－6〕一般的な銀行取引約定書（融資の基本契約書）、〔問－24〕為替予約による逸失利益、〔問－27〕信用保証協会の免責事項、〔問－30〕非上場株式等の贈与税の納税猶予の特例、〔問－33〕中小企業再生支援協議会版「資本的借入金」の特徴の5問で、前回の8 問に対して3問減少しました。
これらの問題は、出題頻度が低いものや、過去に出題したことがないものであり、正解率が低くなることが予想された問題です。しかし、合格率は前回を上回り概ね良好な結果となりました。
試験において確認した知識、また習得した知識は、実務において活用したいところです。

〔表－11〕法人融資渉外3級・業態別成績一覧表　（合格点は、60点以上。年齢・勤続年数は、受験者の平均値）

	都銀・特銀	地銀	信託	第二地銀	信金	信組	信連・農協	労金	生保・損保	証券	郵政	他団体・個人	全体
応募者数	82	1,032	3	463	744	107	26	0	2	0	1	257	2,717
応募比率	3.02	37.98	0.11	17.04	27.38	3.94	0.96	0.00	0.07	0.00	0.04	9.46	100.00
受験者数	68	927	2	398	641	91	24	0	2	0	1	181	2,335
受験率	82.93	89.83	66.67	85.96	86.16	85.05	92.31	0.00	100.00	0.00	100.00	70.43	85.94
合格者数	58	405	1	109	114	21	10	0	2	0	0	78	798
合格率	85.29	43.69	50.00	27.39	17.78	23.08	41.67	0.00	100.00	0.00	0.00	43.09	34.18
平均点	68.93	56.53	57.50	49.93	48.42	50.48	53.92	0.00	76.00	0.00	54.00	56.18	53.26
年齢	26.5	29.4	40.0	31.6	34.4	36.9	34.3	0.0	40.0	0.0	54.0	31.8	31.6
勤続年数	4.1	6.8	17.5	8.9	11.5	14.1	11.7	0.0	0.0	0.0	31.0	8.6	8.9

個人融資渉外3級

「個人融資渉外3級」の成績結果は、〔表－12〕のとおりです。
応募者数2,254名中受験者は2,048名で、合格者は706名でした。合格率は34.47%、平均点は53.77点で、ともに前回を下回りましたが、銀行業務検定試験の3級レベルの試験としては標準的な成績といえます。
最高点は87点で、永島一輝さん（栃木銀行）、和地正紘さん（個人申込）の2名が個人最優秀賞を受賞されました。
本種目は、五答択一式15問、事例付五答択一式20問および事例付記述式3題で構成されています。
〈基本知識〉の五答択一式および事例付五答択一式で正解率が30%以下となった問題は、〔問－1〕融資の基本事項等、〔問－14〕相続税対策、〔問－15〕小規模宅地等にかかる相続税の計算特例、〔問－17〕住宅ローンの相談対応（借入相談）、〔問－27〕居住用住宅の買換えにかかるアドバイス（特例の知識）、〔問－30〕事業資金融資（財務分析）、〔問－31〕予想損益分岐点売上高の計算方法、〔問－33〕抵当権実行の際の留意点、の8問でした。
〈技能応用〉の事例付記述式は〔問題－3〕経営改善計画と債務者区分がやや低調な結果となりました。
全般的に解答状況は良好であり、十分学習したうえで試験に臨まれた受験者が多かったようです。ただし、最近の法令等の改正ポイントを問うものや、本種目ではよく出題されている基本知識を問うものであっても、事例の設定条件をよく把握したうえで正誤を判定しなければならない問題、計算を伴う問題などを苦手とする受験者が多かったようです。
本種目は個人にかかる渉外業務に携わるうえで必要な業務知識の習得度合いを総合的に判定するものであり、出題内容が多岐にわたります。学習に際しては、いままでの業務を通して積み重ねてきた法務・財務・税務等の基本的な知識を再確認しておくことも重要となります。また、とくに住宅ローン関連の知識は、受験の際に理解を深めておいていただきたい重要なポイントとなります。
実際に業務に携わられていない方には、「顧客メイン化を推進する 個人融資渉外コース」などの通信講座により基礎固めを行い、「住宅ローン実務に学ぶ 融資法務Q&A〔第2版〕」などの関連書籍で業務知識の拡充を図って試験に臨んでいただくことをお勧めいたします（いずれも経済法令研究会刊行）。

〔表－12〕個人融資渉外3級・業態別成績一覧表　（合格点は、60点以上。年齢・勤続年数は、受験者の平均値）

	都銀・特銀	地銀	信託	第二地銀	信金	信組	信連・農協	労金	生保・損保	証券	郵政	他団体・個人	全体
応募者数	3	566	8	231	619	77	477	81	1	0	3	188	2,254
応募比率	0.13	25.11	0.35	10.25	27.46	3.42	21.16	3.59	0.04	0.00	0.13	8.34	100.00
受験者数	1	521	6	208	572	76	441	70	1	0	3	149	2,048
受験率	33.33	92.05	75.00	90.04	92.41	98.70	92.45	86.42	100.00	0.00	100.00	79.26	90.86
合格者数	1	296	6	71	181	14	45	29	1	0	2	60	706
合格率	100.00	56.81	100.00	34.13	31.64	18.42	10.20	41.43	100.00	0.00	66.67	40.27	34.47
平均点	68.00	60.26	67.33	54.31	54.21	49.88	44.26	57.46	61.00	0.00	62.33	56.19	53.77
年齢	45.0	31.6	44.5	30.8	32.1	31.8	31.3	29.4	30.0	0.0	46.0	33.7	31.7
勤続年数	23.0	8.9	23.0	8.7	9.7	9.6	8.3	6.4	8.0	0.0	22.0	9.8	9.1

金融リスクマネジメント2級

「金融リスクマネジメント2級」の成績結果は、〔表－13〕のとおりです。
応募者数1,006名中受験者は860名で、合格者は348名でした。合格率は40.47%、平均点は56.88点で、ともに前回を上回りました。
最高点は86点で、増本健太郎さん（個人申込）が個人最優秀賞を受賞されました。
本種目は、四答択一式35問と記述式3題で構成されています。
四答択一式で正解率が30%以下となった問題は、〔問－28〕成年後見制度および任意後見制度、〔問－32〕自己査定、〔問－35〕貸出条件緩和債権、の3問で、〈リスクマネジメントの基本〉〈金融商品に関するリスク〉ではありませんでした。
記述式につきましては、〔問－36〕災害管理型リスクマネジメントの意義が低調な結果となりました。
解答状況をみますと、受験者の平均勤続年数が18.5年と、実務経験が豊富な方が受験者の中心であるため、一般に得点しづらい法改正や時事的な問題に対しても良好な結果になっていました。記述式の問題についても、論旨を明確にまとめられている受験者が多く、この点が今回の好成績につながったようです。ただし、〈リスクマネジメントの基本〉に関連する記述式の出題については、講学上の概念を問うものであり、他の出題に比して答案としてまとめづらく、高い成績を得られなかった受験者が多かったようです。
本種目は銀行業務検定試験のなかでも、上級者向けの試験に位置づけられています。本種目の学習だけでなく実務においても、関連法令・諸規則などの改正事項や金融行政等の時事的な動きを把握しておくことが重要です。そのなかでも、金融庁ホームページに公開される関連法の改正情報、金融検査マニュアルの改定関連の情報、毎検査事務年度の検査基本方針その他の金融行政に関連する情報は、普段から細めにチェックし、全般的な流れをつかんでおく習慣を付けておくことが望まれます。
試験結果が芳しくなかった方は、参考書等を利用し、あらためて業務知識の拡充を図っていただくことをお勧めいたします。

〔表－13〕金融リスクマネジメント2級・業態別成績一覧表　（合格点は、60点以上。年齢・勤続年数は、受験者の平均値）

	都銀・特銀	地銀	信託	第二地銀	信金	信組	信連・農協	労金	生保・損保	証券	郵政	他団体・個人	全体
応募者数	9	469	41	91	202	11	24	36	1	0	0	122	1,006
応募比率	0.89	46.62	4.08	9.05	20.08	1.09	2.39	3.58	0.10	0.00	0.00	12.13	100.00
受験者数	8	422	37	69	181	9	19	29	1	0	0	85	860
受験率	88.89	89.98	90.24	75.82	89.60	81.82	79.17	80.56	100.00	0.00	0.00	69.67	85.49
合格者数	3	207	26	14	49	2	8	10	0	0	0	29	348
合格率	37.50	49.05	70.27	20.29	27.07	22.22	42.11	34.48	0.00	0.00	0.00	34.12	40.47
平均点	56.63	58.81	63.54	53.03	53.82	52.44	58.74	53.90	46.00	0.00	0.00	55.26	56.88
年齢	35.9	40.8	42.5	40.4	43.4	44.7	42.7	39.5	32.0	0.0	0.0	38.1	41.1
勤続年数	12.0	18.1	18.4	18.7	20.9	23.8	18.8	17.4	9.0	0.0	0.0	15.2	18.5

金融商品取引3級

「金融商品取引3級」の成績結果は、〔表－14〕のとおりです。
応募者数2,144名中受験者は1,894名で、合格者は729名でした。合格率は38.49%、平均点は54.81点で、ともに前回を上回りました。
最高点は94点で、関雄介さん（第四銀行）が個人最優秀賞を受賞されました。
正解率が30%以下となった問題は、〔問－12〕契約締結時等交付書面、〔問－20〕通貨選択型投資信託に関する規制、〔問－30〕店頭デリバティブ取引、〔問－31〕特定投資家制度、〔問－32〕特定投資家に対して適用除外となる規制、〔問－43〕融資先規制の6問でした。
〔問－12〕は、定番のテーマですが、これまでは書面の扱い方についての問題であったものが、今回は内容についての問題としたためと思われます。
〔問－20〕は、通貨選択型投資信託という金融商品について、目論見書の記載内容、販売規制等の多角度から、その取扱い方法を問う広範な知識を必要とする難度の高い問題です。そのため、やや低調な結果となりました。
〔問－30〕は、定番のテーマでこれまで良好な結果でしたが、今回はやや低調な結果となりました。これは、店頭デリバティブ取引の開始にあたって、個人顧客と法人顧客に対する規制の違いがよく理解されていなかったことによるものです。
〔問－31〕、〔問－32〕は、定番のテーマで従前と同様の論点を出題していることから、意外な結果になりました。
〔問－43〕は、銀行等金融機関の保険販売に関する代表的な規制についての問題です。本種目では「保険」に関する問題の成績がやや低調な傾向にありますが、今回、正解率が30%以下となったのは本問のみでした。全体としては受験者がよく理解されているようです。

〔表－14〕金融商品取引3級・業態別成績一覧表　（合格点は、60点以上。年齢・勤続年数は、受験者の平均値）

	都銀・特銀	地銀	信託	第二地銀	信金	信組	信連・農協	労金	生保・損保	証券	郵政	他団体・個人	全体
応募者数	222	903	28	120	350	22	63	108	5	1	2	320	2,144
応募比率	10.35	42.12	1.31	5.60	16.32	1.03	2.94	5.04	0.23	0.05	0.09	14.93	100.00
受験者数	207	806	25	104	310	19	55	99	2	1	2	264	1,894
受験率	93.24	89.26	89.29	86.67	88.57	86.36	87.30	91.67	40.00	100.00	100.00	82.50	88.34
合格者数	85	321	19	29	88	3	19	36	1	1	0	127	729
合格率	41.06	39.83	76.00	27.88	28.39	15.79	34.55	36.36	50.00	100.00	0.00	48.11	38.49
平均点	55.20	55.74	67.44	51.50	50.88	45.37	51.89	52.53	64.00	80.00	53.00	58.36	54.81
年齢	23.1	33.2	34.4	35.9	34.2	37.8	33.4	31.5	46.0	23.0	46.5	35.1	32.7
勤続年数	0.7	10.8	9.5	14.5	11.8	13.6	11.5	8.4	17.5	0.0	16.0	10.3	9.9